

大学番号：016

注3

意見伺い（JD）

[平成29年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

筑波大学大学院 人間総合科学研究科
国際連携食料健康科学専攻

注2

【意見伺い（JD）】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 筑波大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教育推進部 教育機構支援課

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

大学院人間総合科学研究科

＜国際連携食料健康科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	42
7. その他全般的事項	43

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人 筑波大学

【連携外国大学の設置者】 ①フランス共和国
②台湾

(2) 大 学 名

筑波大学大学院

【連携外国大学の名称】 ①University of Bordeaux (Université de Bordeaux)
②National Taiwan University (國立臺灣大學)

(3) 調査対象大学等の位置

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1

【連携外国大学の本部の位置】

①33706 Bordeaux cedex, France

②台湾 台北市大安区羅斯福路四段1号

<①University of Bordeaux>

①-1 College of Health Sciences: 146 rue Leo Saignat 33000 Bordeaux

①-2 College of Science and Technology: 351 cours de la Libération 33400 Talence

<②National Taiwan University>

②-1 医学院: 台北市中正区仁愛路一段1号

②-2 生物資源・農学院: 台北市大安区羅斯福路四段1号

②-3 公共衛生学院: 台北市中正区徐州路17号

②-4 生命科学院: 台北市大安区羅斯福路四段1号

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学長	(ナガタ キョウスケ) 永 田 恭 介 (平成25年4月)		
研究科長	(ソノヤマ シゲキ) 園 山 繁 樹 (平成28年4月)	(ウチヤマ ハルキ) 内 山 治 樹 (平成30年4月)	任期満了のため変更、平成30年4月1日(30)
専攻長	(クマガイ ヨシト) 熊 谷 嘉 人 (平成29年9月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例)平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設置時の計画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻 修士(食料健康科学)	医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及び リハビリテーション 関係を除く。)	2 年	9 <616> 人	0 <0> 年次 人	18 <1,478> 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告 年度までの平均 入学定員超過率	備 考
	-	9月入学	-	9月入学	-	9月入学			
A 入学定員	人 (-) [-]	9 (-) [-]	人 (-) [-]	9 (-) [-]	人 (-) [-]	9 (-) [-]	0.78倍	-	
志願者数	- (-) [-]	16 (-) [16]	- (-) [-]	24 (-) [23]	- (-) [-]	() (-) []			
受験者数	- (-) [-]	15 (-) [15]	- (-) [-]	23 (-) [22]	- (-) [-]	() (-) []			
合格者数	- (-) [-]	10 (-) [10]	- (-) [-]	12 (-) [11]	- (-) [-]	() (-) []			
B 入学者数	- (-) [-]	10 (-) [10]	- (-) [-]	11 (-) [10]	- (-) [-]	() (-) []			
入学定員超過率 B/A	1.11		1.22		0				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
- (例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		備 考
		-	9月入学	-	9月入学	-	9月入学	
1 年次	-	13	-	11	-	11	平成29年度入学者には、筑波大学他専攻より本専攻に移籍した者3名を含む。	
	[-]	[10]	(-)	[10]	(-)	[10]		
	(-)	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)		
2 年次			-	13	-	13		
			(-)	[10]	(-)	[10]		
			[-]	(-)	[-]	(-)		
計	13	24	24					
	[10]	[20]	[20]					
	(-)	(-)	(-)					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
- (例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成29年度	13 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	24 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	24 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{24} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{24} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			4	1		1		16
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			1			1		1
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			1					1
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2		1					1
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		1					
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			2	1				
	医学英語		1前	筑波大学		1			1		1		
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1							1
	小計(8科目)	-	-	-	6.5	6	0	8	3	0	3	0	18
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1			5	1		1		5
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1		5	1				
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			3					
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3			5	1		1		5
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2		5	1				
	生物医科学研究の橋渡しのためのフートキャンプ		1後	国立台湾大学		2		6	1				
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3			5	4				
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3		5	1				
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5			2	2				
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3		1	1		1		1
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3		1					
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15		1					
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15		2	2				
	小計(13科目)	-	-	-	10	44	0	16	8	0	1	0	5
専門科目Ⅱ	基礎毒性学		1前	筑波大学	1			1			1		
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2		2	2	1	1		
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2		3	3		4		
	腫瘍学		1前	筑波大学		2		10	4	1	1		2
	保健医療政策学・医療管理学		1前	筑波大学		2			1				
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2							1
	食料システム学特論		1前	筑波大学		2							1
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学		3		1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学		2		3			2		
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		3	2				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		2	2		1		
	疾病負荷の測定:方法と応用		1後	国立台湾大学		2			1		1		
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		1	1				

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			4	1		2		18
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			1			2		1
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			1					1
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2		1					1
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		1					
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			2	1				
	医学英語		1前	筑波大学		1			1		1		
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1							1
	小計(8科目)	-	-	-	6.5	6	0	8	3	0	5	0	20
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1			5	1		1		5
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1		5	1				
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			3					
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3			5	1		2		5
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2		5	1				
	生物医科学研究の橋渡しのためのフートキャンプ		1後	国立台湾大学		2		9	1				
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3			5	5				
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3		5	1				
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5			2	2				
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3		1	1		1		1
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3		1					
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15		1					
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15		2	2				
	小計(13科目)	-	-	-	10	44	0	19	9	0	2	0	5
専門科目Ⅱ	基礎毒性学		1前	筑波大学	1			1			2		
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2		2	2	1	1		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1		1					
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2		3	4		3		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2		2	1		1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1		1					
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2							1
	食料システム学特論		1前	筑波大学		2							1
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学		3		1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学		2		3			2		
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		3	2				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		2	2		1		
	疾病負荷の測定:方法と応用		1後	国立台湾大学		2			1		1		
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		1	1				
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2			1				

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目Ⅱ	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			8	9		1		
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		1					
	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		3	5				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		2	3				
	小計(24科目)	-	-		8	39		43	36	2	12		4
(研究指導)			1～2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学	-	-	-	42	30	0	1		
合計(45科目)		-			24.5	89	0	65	51	2	15		20
卒業要件及び履修方法													
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。													
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)													

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目Ⅱ	台湾農業		1後	国立台湾大学	2				9		1		
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		1					
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセスシグナ		1後	国立台湾大学		1		1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		1					
	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		3	5				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		2	3				
	小計(27科目)	-			8	42	0	39	35	1	10		2
(研究指導)			1～2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学	-	-	-	43	31	0	0		
合計(48科目)		-			24.5	92	0	64	51	1	13		20
卒業要件及び履修方法													
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。													
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)													

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			4	1		1		16
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			1			2		1
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			1					1
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学	2			1					1
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学	2			1					
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			2	1				
	医学英語		1前	筑波大学	1				1		1		
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学	1								1
	小計(8科目)	-	-	-	6.5	6	0	8	3	0	3	0	18
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1			5	1		2		5
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学	1			5	1				
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			3					
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3			5	1		3		5
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学	2			5	1				
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学	2			6	1				
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3			5	4				
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学	3			5	1				
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5			2	2				
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学	3			1	1		1		1
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学	3			1					
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学	15			1					
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学	15			2	2				
	小計(13科目)	-	-	-	10	44	0	16	8	0	3	0	5
専門科目Ⅱ	基礎毒性学		1前	筑波大学	1			1			2		
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学	2			2	2	1	1		
	ガンの生物学		1前	筑波大学	2			3	3		4		
	腫瘍学		1前	筑波大学	2			10	4	1	1		2
	保健医療政策学・医療管理学		1前	筑波大学	2			1	1				
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学	2								1
	食料システム学特論		1前	筑波大学	2								1
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			3			2		
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学	3			3	2				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学	3			2	2		1		
	疾病負荷の測定:方法と応用		1後	国立台湾大学	2				1		1		
	分子栄養学		1後	国立台湾大学	2			1	1				
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			8	9		1		
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学	2			1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			4	1		2		17
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			1			2		1
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			1					1
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学	2			1					1
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学	2			1					
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			2	1				
	医学英語		1前	筑波大学	1				1		1		
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学	1								1
	小計(8科目)	-	-	-	6.5	6	0	8	3	0	5	0	19
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1			5	1		1		5
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学	1			5	1				
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5			3					
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3			5	1		2		5
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学	2			5	1				
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学	2			2	9	1			
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3			5	5				
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学	3			5	1				
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5			2	2				
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学	3			1	1		1		1
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学	3			1					
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学	15			1					
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学	15			2	2				
	小計(13科目)	-	-	-	10	44		19	9	0	2	0	5
専門科目Ⅱ	基礎毒性学		1前	筑波大学	1			1			2		
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学	2			2	1	1	1		
	ガンの生物学		1前	筑波大学	2			3	4		3		
	腫瘍学		1前	筑波大学	2			10	4	1	1		2
	保健医療政策学	1前	筑波大学	1				1					
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学	2								1
	食料システム学特論		1前	筑波大学	2								1
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			3			2		
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学	3			3	2				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学	3			2	2		1		
	疾病負荷の測定:方法と応用		1後	国立台湾大学	2				1		1		
	分子栄養学		1後	国立台湾大学	2			1	1				
	食品安全と健康	1後	国立台湾大学	2				2		1			
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2				9	9	1		
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学	2			1					

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目Ⅱ	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		1					
	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		3	5				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		2	3				
	小計(24科目)	-	-		8	39	0	44	35	2	13		
	(研究指導)		1～2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学	-	-	-	43	31	0	0		
	合計(45科目)	-			25	89	0	67	51	2	15		20
卒業要件及び履修方法													
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。													
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)													

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目Ⅱ	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセスシグナリング		1後	国立台湾大学		1		1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		1					
	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		3	5				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		1	2				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		2	1				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		2	3				
	小計(26科目)	-			8	41	0	46	36	2	11		
	(研究指導)		1～2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学	-	-	-	43	31	0	0		
	合計(47科目)	-			25	91	0	70	53	2	14	21	
卒業要件及び履修方法													
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。													
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

掲載省略

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
筑波大学	6 科目	10 科目	0 科目	16 科目	6 科目 [0]	11 科目 [1]	0 科目 [0]	17 科目 [1]	新規科目追加：1 科目
国立台湾 大学	3 科目	13 科目	0 科目	16 科目	3 科目 [0]	15 科目 [2]	0 科目 [0]	18 科目 [2]	新規科目追加：2 科目
ボルドー 大学	4 科目	9 科目	0 科目	13 科目	4 科目 [0]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	13 科目 [0]	
共同開設科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1 科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	筑波大学	該当なし					
2	国立台湾大学	分子栄養学	2	1後	専門	選択	国立台湾大学の担当教員がサバティカル休暇取得のため、代替科目として「食品安全と健康」を開講。
3	国立台湾大学	乳製品のバイオテクノロジー	2	1後	専門	選択	国立台湾大学の担当教員が海外研修のため、代替科目として「創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング」を開講。
4	ボルドー大学	該当なし					
5	共同開設科目	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	筑波大学	腫瘍学	2	1前	専門	選択	より本専攻の教育目的に合致する代替科目として「人体病理学・腫瘍学」を追加したことに伴い廃止。
2	筑波大学	保健医療政策学・医療管理学	2	1前	専門	選択	授業運営の見直しにより平成30年度から「保健医療政策学」と「医療管理学」に分離したことに伴い廃止。本専攻の教育目的に照らして授業内容を再度精査した上で、「保健医療政策学」のみを選択科目として維持。
3	国立台湾大学	該当なし					
4	ボルドー大学	該当なし					
5	共同開設科目	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：教育に支障がないように、未開講科目及び廃止科目に対してはそれぞれ代替科目を開講している。選択科目であるため影響は比較的小さいと考えている。
 学生への周知方法：ガイダンスおよび科目表便覧により周知するとともに、指導教員を通じて学生へ十分に説明を行っている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目（3）と廃止科目（4）の計	=	4	=	8.88 %
設置時の計画の授業科目数の計（A）		45		

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	1,371,692 m ²	0 m ²	0 m ²	1,371,692 m ²				
	運動場用地	330,920 m ²	0 m ²	0 m ²	330,920 m ²				
	小 計	1,702,612 m ²	0 m ²	0 m ²	1,702,612 m ²				
	そ の 他	886,368 m ²	0 m ²	0 m ²	886,368 m ²				
	合 計	2,588,980 m ²	0 m ²	0 m ²	2,588,980 m ²				
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		494,154 m ² (494,154 m ²)	0 m ² 0 m ²	0 m ² 0 m ²	494,154 m ² (494,154 m ²)				
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		328 332 室	291 300 室	2,043 2,031 室	33 31 30 (補助職員 13 12 人)	7 室 (補助職員 18 14 人)	環境整備統合による室数 減及び退職による職員減 (30) 教室用途整理のため (元)		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		専任教員の異動等のため (元)		
		人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻			38 23 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能な ため、大学全体の数
	人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻	2,643,346 〔1,038,005〕 2,662,306 〔1,041,657〕 2,681,796 〔1,044,194〕 〔2,643,346 〔1,038,005〕〕 〔2,662,306 〔1,041,657〕〕 〔2,681,796 〔1,044,194〕〕	30,168 〔12,846〕 30,269 〔12,869〕 30,364 〔12,874〕 〔30,168 〔12,846〕〕 〔30,269 〔12,869〕〕 〔30,364 〔12,874〕〕	28,970 〔28,331〕 29,586 〔28,949〕 31,466 〔31,404〕 〔28,970 〔28,331〕〕 〔29,586 〔28,949〕〕 〔31,466 〔31,404〕〕	16,959 17,109 17,262 〔16,959〕 〔17,109〕 〔17,262〕	24,989 40,580 24,989 〔24,989〕 〔40,580〕 〔24,989〕	551 (551)		
	計	2,643,346 〔1,038,005〕 2,662,306 〔1,041,657〕 2,681,796 〔1,044,194〕 〔2,643,346 〔1,038,005〕〕 〔2,662,306 〔1,041,657〕〕 〔2,681,796 〔1,044,194〕〕	30,168 〔12,846〕 30,269 〔12,869〕 30,364 〔12,874〕 〔30,168 〔12,846〕〕 〔30,269 〔12,869〕〕 〔30,364 〔12,874〕〕	28,970 〔28,331〕 29,586 〔28,949〕 31,466 〔31,404〕 〔28,970 〔28,331〕〕 〔29,586 〔28,949〕〕 〔31,466 〔31,404〕〕	16,959 17,109 17,262 〔16,959〕 〔17,109〕 〔17,262〕	24,989 40,580 24,989 〔24,989〕 〔40,580〕 〔24,989〕	551 (551)		
(6)図書館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		27,493 m ²		2,192 2,234 2,230		2,597,473 2,606,501		環境整備による座席数増 (30) 環境整備のため (元)	
(7)体育館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		18,682 m ²		テニスコート、ハンドボール場、ラグビー場、サッカー場、陸上競技場、屋内フール					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	筑 波 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地	
人文・文化学群	年	人	年次 人	人	-	倍	年度	年度	-	
人文学類	4	240	-	960	-	1.07	-	平成19年度	-	
比較文化学類	4	120	-	480	学士 (人文学)	1.07	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
日本語・日本文学類	4	80	-	320	学士 (比較文化)	1.05	-	平成19年度	同上	
	4	40	-	160	学士 (文学) (日本語教育)	1.11	-	平成19年度	同上	
社会・国際学群	4	160	3年次 10	660	-	1.13	-	平成19年度	-	
社会学類	4	80	3年次 10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	1.10	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際総合学類	4	80	-	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	1.15	-	平成19年度	同上	
人間学群	4	120	-	480	-	1.06	-	平成19年度	-	
教育学類	4	35	-	140	学士 (教育学)	1.04	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
心理学類	4	50	-	200	学士 (心理学)	1.06	-	平成19年度	同上	
障害科学類	4	35	-	140	学士 (障害科学) (特別支援教育学) (社会福祉学)	1.08	-	平成19年度	同上	
生命環境学群	4	250	3年次 10	1,020	-	1.12	-	平成19年度	-	
生物学類	4	80	-	320	学士 (理学)	1.14	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物資源学類	4	120	3年次 10	500	学士 (生物資源学) (農学)	1.13	-	平成19年度	同上	
地球学類	4	50	-	200	学士 (理学)	1.06	-	平成19年度	同上	
理工学群	4	520	3年次 10	2,100	-	1.03	-	平成19年度	-	
数学類	4	40	-	160	学士 (理学)	1.02	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
物理学類	4	60	-	240	学士 (理学)	1.03	-	平成19年度	同上	
化学類	4	50	-	200	学士 (理学)	1.03	-	平成19年度	同上	
応用理工学類	4	120	3年次 10	500	学士 (工学)	1.05	-	平成19年度	同上	
工学システム学類	4	130	-	520	学士 (工学)	1.04	-	平成19年度	同上	
社会工学類	4	120	-	480	学士 (社会工学)	1.02	-	平成19年度	同上	
情報学群	4	230	3年次 30	980	-	1.06	-	平成19年度	-	
情報科学類	4	80	3年次 10	340	学士 (情報科学) (情報工学)	1.05	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
情報メディア創成学類	4	50	3年次 10	220	学士 (情報メディア科学)	1.09	-	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2	
知識情報・図書館学類	4	100	3年次 10	420	学士 (図書館情報学)	1.05	-	平成19年度	同上	

医学群	6	135	2年次 5	813	-	1.00	-	平成19年度	-	
医学類	6	135	2年次 5	813	学士 (医学)	1.00	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	臨時定員増を含む
医学群	4	107	3年次 13	454	-	1.03	-	平成19年度	-	
看護学類	4	70	3年次 10	300	学士 (看護学) (ヘルスケア)	1.03	-	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
医療科学類	4	37	3年次 3	154	学士 (医療科学) (国際医療科学)	1.03	-	平成19年度	同上	
体育専門学群	4	240	-	960	学士 (体育学)	1.05	-	昭和49年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
芸術専門学群	4	100	-	400	学士 (芸術学)	1.08	-	昭和50年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
大学全体	4	1,967	3年次 73	8,014	-	1.06	-	-	-	
	6	135	2年次 5	813	-	1.00	-	-	-	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科及び別科を除く）。

- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	筑波大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地	
教育研究科 【修士課程】	年 2 2	人 100 100	年次 人 - -	人 199 199	- -	- 0.94	- -	昭和53 -	- -	
スクリーニング開発専攻 (修士課程)	2	20	-	39	修士 (教育学)	1.50	-	平成18	茨城県つくば市天王台1-1-1	
教科教育専攻 (修士課程)	2	80	-	160	修士 (教育学)	0.80	-	昭和53	同上	
人文社会科学部研究科 【修士課程】	- 2	161 36	- -	473 72	- -	- 0.73	- -	平成13 -	- -	
【博士前期課程】	2	50	-	100	-	1.19	-	-	-	
【博士後期課程】	3	37	-	111	-	0.82	-	-	-	
【一貫制博士課程】	5	38	-	190	-	0.93	-	-	-	
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	36	-	72	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策) (経済学) (学術)	0.73	-	平成27	茨城県つくば市天王台1-1-1	
現代語・現代文化専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士 (文学) (言語学) (学術)	0.95	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際公共政策専攻 (博士前期課程)	2	15	-	30	修士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	0.93	-	平成20	同上	
国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	25	-	50	修士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学)	1.44	-	平成27	同上	
現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	8	-	24	博士 (文学) (言語学) (学術)	0.70	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	10	-	30	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	0.50	-	平成20	同上	
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	19	-	57	博士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) (学術)	1.04	-	平成20	同上	
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	6	-	30	博士 (文学)	1.19	-	平成13	茨城県つくば市天王台1-1-1	
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	12	-	60	博士 (文学)	1.01	-	平成13	同上	
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	20	-	100	博士 (文学) (言語学)	0.81	-	平成13	同上	
ビジネス科学研究科 【博士前期課程】	- 2	149 60	- -	357 120	- -	- 0.96	- -	平成13 -	- -	
【博士後期課程】	3	23	-	69	-	0.99	-	-	-	
【法科大学院】	3	36	-	108	-	0.98	-	-	-	
【専門職学位課程】	2	30	-	60	-	1.06	-	-	-	
経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	-	60	修士 (経営学) (経営システム科学)	1.01	-	平成13	東京都文京区大塚3-29-1	
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	30	-	60	修士 (法学)	0.91	-	平成13	同上	
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	23	-	69	博士 (経営学) (システム・マネジメント) (法学)	0.99	-	平成13	東京都文京区大塚3-29-1	

法曹専攻 (法科大学院)	3	36	-	108	法務博士 (専門職)	0.98	-	平成17	東京都文京区大塚3-29-1	
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	30	-	60	国際経営修士 (専門職)	1.06	-	平成17	東京都文京区大塚3-29-1	
数理工学専攻 【博士前期課程】	-	351	-	813	-	-	-	平成12	-	
【博士後期課程】	2	240	-	480	-	1.11	-	-	-	
【後期3年のみの博士課程】	3	102	-	306	-	0.45	-	-	-	
	3	9	-	27		1.66				
数学専攻 (博士前期課程)	2	27	-	54	修士 (理学)	0.82	-	平成12	茨城県つくば市天王台1-1-1	
物理学専攻 (博士前期課程)	2	50	-	100	修士 (理学)	1.14	-	平成12	同上	
化学専攻 (博士前期課程)	2	48	-	96	修士 (理学)	0.98	-	平成12	同上	
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	54	-	108	修士 (工学)	1.24	-	平成12	同上	
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	61	-	122	修士 (工学)	1.20	-	平成12	同上	
数学専攻 (博士後期課程)	3	12	-	36	博士 (理学)	0.36	-	平成12	茨城県つくば市天王台1-1-1	
物理学専攻 (博士後期課程)	3	20	-	60	博士 (理学)	0.41	-	平成12	同上	
化学専攻 (博士後期課程)	3	16	-	48	博士 (理学)	0.41	-	平成12	同上	
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	25	-	75	博士 (工学)	0.33	-	平成24	同上	
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	16	-	48	博士 (工学)	0.57	-	平成12	同上	
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	13	-	39	博士 (工学)	0.71	-	平成12	同上	
物質・材料工学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	9	-	27	博士 (工学)	1.66	-	平成16	茨城県つくば市天王台1-1-1	
システム情報工学専攻 【博士前期課程】	-	533	-	1,172	-	-	-	平成12	-	
【博士後期課程】	2	427	-	854	-	1.24	-	-	-	
	3	106	-	318	-	0.77	-	-	-	
社会学専攻 (博士前期課程)	2	108	-	216	修士 (社会学) (サービス工学)	1.20	-	平成26	茨城県つくば市天王台1-1-1	
リスク工学専攻 (博士前期課程)	2	30	-	60	修士 (工学) (社会学)	1.34	-	平成13	同上	
コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	2	113	-	226	修士 (工学)	1.26	-	平成12	同上	
知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	108	-	216	修士 (工学)	1.18	-	平成12	同上	
構造エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	68	-	136	修士 (工学)	1.32	-	平成12	同上	
社会学専攻 (博士後期課程)	3	26	-	78	博士 (社会学)	0.63	-	平成26	茨城県つくば市天王台1-1-1	
リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	12	-	36	博士 (工学) (社会学)	0.88	-	平成13	同上	
コンピュータサイエンス専攻 (博士後期課程)	3	28	-	84	博士 (工学)	0.61	-	平成12	同上	
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	24	-	72	博士 (工学)	1.14	-	平成12	同上	
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	16	-	48	博士 (工学)	0.62	-	平成12	同上	
生命環境科学研究科 【博士前期課程】	-	428	-	1,057	-	-	-	平成12	-	
【博士後期課程】	2	269	-	538	-	1.19	-	-	-	
【後期3年のみの博士課程】	3	132	-	396	-	0.90	-	-	-	
【一貫制博士課程】	3	6	-	18	-	0.55	-	-	-	
	5	21	-	105	-	0.64	-	-	-	
地球科学専攻 (博士前期課程)	2	39	-	78	修士 (理学) (地球科学)	1.59	-	平成19	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	49	-	98	修士 (理学)	1.15	-	平成17	同上	
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	2	106	-	212	修士 (農学) (生物資源工学) (生物工学) (バイオテクノロジー) (学術)	1.24	-	平成17	同上	
環境科学専攻 (博士前期課程)	2	69	-	138	修士 (環境科学)	1.01	-	平成19	同上	
国際連携持続環境科学専攻 (博士前期課程)	2	6	-	12	修士 (持続環境科学)	0.72	-	平成29	同上	H29.9設置 4月及び9月入学

地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	11	-	33	博士 (理学) (地球環境科学)	0.87	-	平成19	茨城県つくば市天王台1-1-1	
地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	8	-	24	博士 (理学) (地球科学)	0.99	-	平成19	同上	
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	26	-	78	博士 (理学) (生物科学) (学術)	1.02	-	平成23	同上	
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	22	-	66	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	0.67	-	平成17	同上	
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	20	-	60	博士 (農学) (学術)	0.78	-	平成17	同上	
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	21	-	63	博士 (農学) (生物工学) (学術)	0.56	-	平成17	同上	
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	12	-	36	博士 (生物科学) (農学) (生物工学) (学術)	0.83	-	平成17	同上	
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	-	36	博士 (環境学)	1.91	-	平成19	同上	
先端農業技術科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	6	-	18	博士 (農学)	0.55	-	平成17	茨城県つくば市天王台1-1-1	
環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	21	-	105	博士 (学術)	0.64	-	平成24	茨城県つくば市天王台1-1-1	
人間総合科学研究科 【修士課程】	-	616	-	1,478	-	-	-	平13	-	
【博士前期課程】	2	88	-	176	-	1.12	-	-	-	
【博士後期課程】	2	344	-	688	-	0.99	-	-	-	
【後期3年のみの博士課程】	3	86	-	258	-	0.94	-	-	-	
【医学を履修する博士課程】	3	36	-	108	-	1.28	-	-	-	
	4	62	-	248	-	1.49	-	-	-	
ｽﾎｰﾂ健康ｼｽﾃﾑ・ﾏｼﾞﾓﾝﾄ専攻 (修士課程)	2	24	-	48	修士 (体育学) (保健学)	0.99	-	平成20	東京都文京区大塚3-29-1	
フロンティア医科学専攻 (修士課程)	2	50	-	100	修士 (医科学) (公衆衛生学) (ヒューマン・ケア科学)	1.27	-	平成18	茨城県つくば市天王台1-1-1	
ｽﾎｰﾂ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	5	-	10	修士 (ｽﾎｰﾂ国際開発学)	1.20	-	平成28	同上	
国際連携食料健康科学専攻 (修士課程)	2	9	-	18	修士 (食料健康科学)	1.16	-	平成29	同上	H29.9設置 9月入学のみ
教育学専攻 (博士前期課程)	2	18	-	36	修士 (教育学)	0.69	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
心理専攻 (博士前期課程)	2	16	-	32	修士 (心理学)	0.78	-	平成20	同上	
障害科学専攻 (博士前期課程)	2	45	-	90	修士 (障害科学) (特別支援教育学)	0.75	-	平成20	同上	
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	46	-	92	修士 (カウンセリング) (リハビリテーション)	1.06	-	平成20	東京都文京区大塚3-29-1	
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	2	14	-	28	修士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	1.24	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
看護科学専攻 (博士前期課程)	2	15	-	30	修士 (看護科学)	0.99	-	平成19	同上	
体育学専攻 (博士前期課程)	2	115	-	230	修士 (体育学) (コーチング学) (ｽﾎｰﾂ・ﾚｼﾋﾞﾃﾞﾝｼﾞｬﾙ)	1.11	-	平成20	同上	
芸術専攻 (博士前期課程)	2	60	-	120	修士 (芸術学) (デザイン学)	0.94	-	平成19	同上	
世界遺産専攻 (博士前期課程)	2	15	-	30	修士 (世界遺産学) (学術)	1.06	-	平成19	同上	
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	8	-	24	博士 (教育学)	0.62	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (教育学) (学術)	1.38	-	平成20	同上	
心理学専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (心理学) (学術)	0.49	-	平成20	同上	
障害科学専攻 (博士後期課程)	3	10	-	30	博士 (障害科学)	1.10	-	平成20	同上	

生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (生涯発達科学) (カウンセリング科学) (リハビリテーション科学)	1.11	-	平成20	東京都文京区大塚3-29-1	
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	10	-	30	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	1.13	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	8	-	24	博士 (看護科学)	0.91	-	平成21	同上	
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	15	-	45	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	1.06	-	平成20	同上	
芸術専攻 (博士後期課程)	3	10	-	30	博士 (芸術学) (デザイン学)	0.90	-	平成19	同上	
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	7	-	21	博士 (世界遺産学) (学術)	0.56	-	平成18	同上	
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	18	-	54	博士 (教育学) (心理学) (ヒューマン・ケア科学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	1.29	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
スポーツ医学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	10	-	30	博士 (スポーツ医学) (学術)	1.16	-	平成20	同上	
コーチング学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	5	-	15	博士 (コーチング学) (学術)	1.66	-	平成18	同上	
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	-	9	博士 (体育スポーツ学)	1.00	-	平成28	同上	
生命システム医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	28	-	112	博士 (医学) (学術)	1.23	-	平成20	茨城県つくば市天王台1-1-1	
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	34	-	136	博士 (医学) (学術)	1.71	-	平成20	同上	
図書館情報メディア研究科 【博士前期課程】	-	58	-	137	-	-	-	平成15	-	
【博士後期課程】	2	37	-	74	-	1.24	-	-	-	
	3	21	-	63	-	0.50	-	-	-	
図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	37	-	74	修士 (図書館情報学) (情報学)	1.24	-	平成15	茨城県つくば市春日1-2	
図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	21	-	63	博士 (図書館情報学) (情報学) (学術)	0.50	-	平成15	茨城県つくば市春日1-2	
大学院全体	-	2,396	-	5,686	-	-	-	-	-	
【修士課程】	2	224	-	447	-	0.98	-	-	-	
【博士前期課程】	2	1,427	-	2,854	-	1.14	-	-	-	
【博士後期課程】	3	507	-	1,521	-	0.77	-	-	-	
【後期3年のみの博士課程】	3	51	-	153	-	1.26	-	-	-	
【医学を履修する博士課程】	4	62	-	248	-	1.49	-	-	-	
【一貫制博士課程】	5	59	-	295	-	0.83	-	-	-	
【法科大学院】	3	36	-	108	-	0.98	-	-	-	
【専門職学位課程】	2	30	-	60	-	1.06	-	-	-	
<学生募集を停止している専攻>										
システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	-	-	平成12	同上	平成26年度より学生募集停止

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表

掲載省略

(1) ② 担当教員表に関する変更内容

掲載省略

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員

〔研究指導教員等〕が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
18	9	2	9	38	11	8	1	8	28
(19)	(8)	(2)	(10)	(39)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	16	15			7	7	14		
(7)	(16)	(16)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
11	8	1	8	28	12	9	1	11	33
[△7]	[△1]	[△1]	[△1]	[△10]	[△6]	[0]	[△1]	[2]	[△5]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	7	14			7	8	18		
[0]	[△9]	[△1]			[0]	[△8]	[3]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要審査済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{38} = \boxed{73.68} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		掲載省略											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
15	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合 計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
15	人	必修	3	科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	3	科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	1 科目
		自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	6	科目	計	5 科目	計	0 科目	計	1 科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{15}{38} = \boxed{39.47} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

オムニバス方式の科目「腫瘍学」を廃止したことを主な原因として専任教員数が減少しているが、より本専攻の教育目的に合致する代替科目を開設したことによって生じた変更であり、学生への影響は無い。なお、当該科目の廃止及び専任教員交代が関係するのは令和元年9月以降の入学者となるが、これら学生に対してはホームページ及びガイダンス等により変更内容を周知することとしている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (29年)	<p>(同一設置者が設置する人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻)</p> <p>1. 必修科目の単位を取得できなかった場合の再履修方法について、テレビ会議システムだけでなくeラーニングを活用するなど、遠隔地で再履修を行う際の学修環境を充実させるとともに、遠隔地の教員と現地の教員の密接な連携の下、現地の教員が必要に応じて学修の支援を行うなど、遠隔地で再履修を行う学生のサポート体制を充実させること。</p>	<p>留意事項</p> <p>1. 遠隔地で再履修を行う際の学修環境について、3大学で審議を行い以下の事項を確認した。 (1) テレビ会議システムによるリアルタイムの受講だけでなく、筑波大学が機関導入している学習管理システム (manaba) や連携外国大学が有するeラーニングシステムを活用すること。 (2) 遠隔地での再履修に際しては、遠隔地の教職員が必要に応じて教材準備や講義参加を行うことで、現地と同様の学修環境を整えること。 (3) 講義時間外においても、電子メール、eラーニング、Skype等を活用し、遠隔地の教員と現地の教員が連携しながら必要な学修指導 (例: 補足教材の配布、質問対応、講義理解度の定期的な確認や課題レポートに対するフィードバックなど) を行うこと。 以上により、遠隔地で再履修を行う際の学修環境を充実させるとともに、現地学生と同様のサポートが行える体制を確保している。 (30)</p>	履行済
	<p>2. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p> <p>2. 申請書に示した協定書 (案) と全く同じ内容で2017年7月に3大学の学長による署名を完了した。 (30)</p>	履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項 (学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。) と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 連携外国大学における指導教員決定時期</p> <p>【設置時の記載】</p> <p>I. 第1セメスター（筑波大学）</p> <p>入学当初にイニシエーションセミナーを実施し、本専攻の理念・目的や学修プロセス全体、第1セメスターの学修目標等について十分理解させる。同時に、主指導教員1名（ホーム大学）及び副指導教員2名（ホーム以外の2大学）を決定し、研究計画書の確認や個別の履修指導・相談を行う。セメスター終期に到達度評価を行うとともに、特定課題研究のテーマ案を提出させ、3大学で確認する。</p>	<p>①指導教員の決定時期について、筑波大学における指導教員は平成29年10月に決定したものの、連携外国大学（ボルドー大学及び国立台湾大学）での指導教員の決定は平成30年1月となり当初計画に遅れが生じた。この理由として、連携外国大学（2大学）の教員活動の紹介ならびにそれぞれの大学の教員との個別相談の実施に時間を要したことが原因としてあげられる。なお、ボルドー大学及び国立台湾大学での指導教員が決定するまでの間も、筑波大学教員との個別指導・相談は随時行うことでサポート体制の充実に努めた。次年度は入学時（9月）の段階で国立台湾大学およびボルドー大学の教員活動紹介を完了し、その直後から個別相談を始めるなどスムーズに実施するよう改善する。（30）</p>
	<p>連携外国大学との「協議の場」に係る実施状況</p> <p>会議名：第1回3大学合同プログラム運営委員会 開催日：平成29年9月27日 開催場所：つくば国際会議場大会議室101 議題：(1)プログラムの組織編成について (2)各委員会からの報告について a. カリキュラム委員会 b. 入試委員会 c. 学位審査委員会 d. プログラム点検・評価委員会 e. 企業連携・キャリア開発委員会 f. 広報委員会 g. 学生委員会 (3)次回テレビ会議とTGSW2018について 参加者：担当教員24名（+関係教員6名）</p> <p>会議名：12th GIP-TRIAD Polycom Meeting（コアメンバー会議） 開催日：平成29年11月21日 開催場所：筑波大学医学エリア4E棟617会議室（TV会議システム利用） 議題：(1)2018年度入学者選抜について (2)3大学における指導教員について (3)その他 参加者：担当教員18名（+関係教員1名）</p> <p>会議名：13th GIP-TRIAD Polycom Meeting（コアメンバー会議） 開催日：平成30年1月11日 開催場所：筑波大学医学エリア4E棟617会議室（TV会議システム利用） 議題：(1)3大学における指導教員について (2)3大学における成績証明について (3)国立台湾大学到着までのスケジュール及び学生の台湾入国ビザ申請状況について (4)GIP-TRIAD国際会議の開催予定について 参加者：担当教員16名</p> <p>会議名：第6回GIP-TRIAD国際会議 開催日：平成30年3月5日 開催場所：国立台湾大学</p>

	<p>議題：(1) NTUでのGIP-TRIAD開設科目の変更と解決策 (2) NTUでのGIP-TRIAD第2セメスターのレポート (3) TGSW2018への招へいと参加 (4) 3大学で自然災害が起きた際の安全報告の方法 (5) 3大学における指導教員について (6) 2018年度入学者対象GIP-TRIAD入試 (7) 学生から提出されたGLiDのサマリー・レポート (8) その他</p> <p>参加者：担当教員11名（＋関係教員1名）</p> <p>会議名：第2回3大学合同プログラム運営委員会 開催日：平成30年9月22日 開催場所：つくば国際会議場会議室202B</p> <p>議題：(1) プログラムの組織編成について (2) 中間発表と修了要件について (3) 第2セメスターでの学生の活動報告と成績について (4) 第3セメスターでの学生の活動報告準備について (5) 第4セメスターでのインターンシップについて (6) 2019年度新規追加選択科目について (7) その他</p> <p>参加者：担当教員26名</p> <p>会議名：14th GIP-TRIAD Polycom Meeting（コメンター会議） 開催日：平成30年12月10日 開催場所：筑波大学医学エリア4E棟617会議室 （TV会議システム利用）</p> <p>議題：(1) 中間発表の評価レポートについて (2) 筑波大学での現時点での研究課題と指導教員リストについて (3) 2019年入学者対象国立台湾大学入試結果について (4) 国立台湾大学でのGIP授業科目について (5) 筑波大学での2019年度選択科目の追加について (6) プログラム外部評価報告について</p> <p>参加者：担当教員21名</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- （注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている連携外国大学との「協議の場」について、実施状況（開催日・議題等）を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

国際連携食料健康科学専攻教育会議 (添付資料①: 運営体制図)

国際連携食料健康科学専攻運営委員会 (筑波大学のみ) (添付資料②: 委員会要項)

3大学合同プログラム運営委員会 (添付資料③: 運営体制図、添付資料④-1協定書、添付資料④-2協定書和訳)

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

国際連携食料健康科学専攻教育会議: 年1, 2回 (構成員ほぼ全員参加)

国際連携食料健康科学専攻運営委員会: 月1回程度 (構成員ほぼ全員参加)

3大学合同プログラム運営委員会 (本学の構成員及び連携外国大学の主要メンバーが参加)

c 委員会の審議事項等

専攻運営に関わる事項全般 (FD活動を含む。)

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 3大学による情報共有・意見交換
- ・ 各セメスターでの学生の活動状況の共有
- ・ シンポジウム・会議等での意見交換
- ・ アンケート結果の検討
- ・ 各セメスターでの教育研究内容情報の共有
- ・ SD活動への積極的な取り組み

b 実施方法

- ・ 対面またはテレビ会議システムを使用して3カ国間で意見交換を実施
- ・ 各セメスターの教育研究内容及び学生の活動状況を取りまとめた報告書を作成、3大学で情報共有を実施
- ・ 第1セメスターを担う筑波大学主催で、国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウムを実施 (H29年9月)
- ・ 第2セメスターを担う国立台湾大学主催で、3大学合同シンポジウム・会議等を実施
- ・ 学生に対するアンケートを実施
- ・ SDを目的とした説明会・ワークショップへの参加及び情報共有

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

- ・ 3カ国合同の運営委員会を年1回開催するとともに、必要に応じてテレビ会議システムを活用した会議・意見交換を随時実施することにより、3大学の教職員による情報共有及び意見交換を定期的に行っている。
- ・ 各セメスターにおける教育研究内容及び学生の活動状況を取りまとめた報告書を作成するなどして3大学で情報共有を行っている。
- ・ 国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム (平成29年9月27日: つくば国際会議場) において、連携外国大学の担当教員やその他有識者を招聘し、意見交換を行った。(関係教員参加)
- ・ 3大学合同シンポジウム (平成30年3月4-6日: 国立台湾大学) において、第1セメスターの報告、第2セメスターの教育内容共有、学生の学修状況等の確認を3大学の担当教職員で行った。(3大学関係教職員参加)
- ・ 筑波大学での第1セメスター終了時に、必修授業・イニシエーションセミナー・学修評価システム・第1セメスター全体に対する評価アンケートを学生に対し実施し、今後の改善点について話し合った。
- ・ 筑波大学海外拠点紹介セミナー (平成29年9月28日) に事務職員1名が参加。関係者に情報を共有した。
- ・ 全学SD研修会ネットワークワーキングショップ「大学のグローバル化を考える」 (平成30年2月13日) に事務職員2名が参加し、関係者に情報を共有した。
- ・ 情報の格付け及び取扱制限、筑波大学オンラインストレージシステム (UTOS) 運用に関する説明会 (平成30年4月3日) に事務職員1名が参加し、関係者に情報を共有した。
- ・ 平成30年度第16回筑波大学FD研修会「2018年度研究倫理FD研修会」に秋山雅博助教が参加し、研究倫理に関する情報を得た。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 3カ国テレビ会議やシンポジウムなどで得られた意見や学生活動報告書、授業アンケート結果をもとに、国際連携食料健康科学専攻運営委員会等において次年度の授業内容、スケジュール、全体の進め方について検討し、改善を図っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 筑波大学での第1 Semester終了時に授業評価アンケートを実施している。また、連携外国大学での学修期間についても学生の学修状況や各国での生活支援などについて要望を聞く機会を設けており、3大学間で情報の共有と改善に向けた連携を図っている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 国際連携食料健康科学専攻運営委員会にて結果報告の上、授業担当の各教員にアンケートの結果をフィードバックした。また、アンケート結果は全学FD報告書（筑波大学）に記載し、学生を含む多くの人に対して情報を公開している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨に沿い、平成29年9月に人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻を開設し、平成29年度は13名（筑波大学3名、国立台湾大学5名、ボルドー大学5名）、平成30年度は11名（筑波大学1名、国立台湾大学5名、ボルドー大学5名）の新入生を迎えることができた。設置申請時に作成した「設置の趣旨等を記載した書類」は、印刷して担当教員に配布・周知するとともに、要点を専攻のウェブページに掲載し、学生等への周知を図っている。国際連携食料健康科学専攻は、開設の趣旨や目的に沿って、着実に進み、教育効果を生み出していると考えている。今後も当該専攻が、大学院の担うべき重要な使命を果たし、設置の趣旨に違わぬ効果をあげるため、3大学の緊密な連携のもとでより一層の努力をしていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年11月 平成29年度版筑波大学年次報告書の公表（毎年11月～12月に 前年度分の年次報告書を作成・公表。当該年次報告書には本専攻の評価も含む。）
- ・令和元年9月 プログラム点検・評価委員会による自己点検・評価結果を基に外部評価を実施。結果を速やかに公表する。

b 公表方法

- ・筑波大学年次報告書については大学ウェブサイトにおいて公表している。
- ・プログラム点検・評価委員会による自己点検・評価結果については専攻ホームページ等で公表する。

③ 認証評価を受ける計画

- ・2017年度に大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受け、「大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」との結果を得た。
- ・次回は2024年度までに受審する予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （令和2年3月 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。